

地域アクションプランの取り組み状況等について

上半期の進捗度(達成度)
【全221プランの取り組み240件】

◎… 12

○… 177

△… 51

記号の解説

《進捗度(達成度)》

- ◎ … 実施計画を超えて進捗した(達成できた)
- … 実施計画どおり進捗した(達成できた)
- △ … 実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)

(注)221プランを分割或いは統合し、240件の取り組みごとに進捗管理を行っており、プラン数と取り組み数は一致しません。

地域名	上半期の総評	特徴的な取り組みの状況	
		1 足下を固め、活力ある県外市場に打って出る	2 産業間連携の強化
安芸	<p>・全体としては、概ね順調に推移</p> <p>・特に、観光分野では、広域全体で地域の特色を活かした取り組みを具体的に展開</p>	<p>① 地産地消の徹底</p> <p>② 地産外商の推進</p> <p>③ 海外への地産外商に挑戦</p>	<p>① 産業間の連携による高付加価値化の推進</p> <p>② 特に産業間連携を進める2つの柱</p> <p>ア 第一次産業の強みを生かした食品加工の推進</p> <p>イ すそ野の広い観光産業の戦略的展開</p>
		<p>・No.11「<u>林業加工品の販売促進</u>」</p> <p>⇒ エコアス馬路村において、モナックに続く新商品の開発、首都圏や海外への販路の開拓など、引き続き地産外商の取り組みを展開</p>	<p>・No.22「<u>体験型観光の旅行商品化と販売・受入体制の整備</u>」</p> <p>⇒ 安芸地域全体のプロモーションビデオの撮影や広域での周遊ルートの策定に着手</p> <p>・No.23「<u>地質資源を活かした交流人口の増加(世界ジオパーク認証に向けた取組)</u>」</p> <p>⇒ 世界ジオパーク候補地の再申請。ガイドの養成や案内板の設置等、受入体制面の整備に着手</p> <p>・No.26「<u>龍馬伝に関連した特産品開発や周遊ルートの確立等</u>」</p> <p>⇒ 「龍馬伝」効果を最大限に活かすために、土産物の開発に着手、周遊ルートを確立</p> <p>・No.29「<u>魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大</u>」</p> <p>⇒ 中芸5町村の各地域において、ガイド研修を積極的に実施するなど、産業遺産の魅力アップに向けた取り組みに着手</p> <p>・No.34「<u>龍馬伝を活かした観光振興</u>」</p> <p>⇒ 中岡慎太郎館のニューアルと、慎太郎館を核とした観光振興、地域産品の開発と販売拡大の取り組みを開始</p>
	<p>上半期の進捗度(達成度)</p> <p>【34プランの取り組み34件】</p> <p>◎… 1</p> <p>○… 23</p> <p>△… 10</p>		
物部川	<p>・全体としては、概ね順調に推移</p> <p>・3市それぞれが国の事業採択を受け、地域雇用創造協議会等による活動を開始するなど、関係機関と連携してプランの推進体制を構築</p>	<p>・No.2「<u>香南市・香美市の園芸主幹品目の振興</u>」</p> <p>⇒ エメラルドメロンの品質向上、省力栽培技術の普及・定着に向け、県農業技術センターが開発した日射比例かん水装置の導入に着手。高品質で安定生産できる体制を確立し、新たな市場(関東)へ販路を拡大</p> <p>・No.3「<u>地産地消・食育の推進</u>」</p> <p>⇒ 学校給食(小学校)への食材供給体制づくりに着手。5月から、JA直販所で地元野菜を調達し、学校への配送を実施</p>	<p>・No.15「<u>シイラの加工商材活用</u>」</p> <p>⇒ 高知県漁協(手結支所)が民間事業者と連携し、浜値の安価な小型シイラの入札へ参加して、一次加工品の製造・販売を行うことにより、小型シイラの安定的な取引と浜値の向上に寄与</p>
	<p>上半期の進捗度(達成度)</p> <p>【22プランの取り組み21件】</p> <p>○… 19</p> <p>△… 2</p>		

<p>3 足腰を強め、新分野へ挑戦</p> <p>① 生産地の足腰の強化と担い手の育成 ② 中山間地域の産業づくり ~地域アクションプランの新たな取り組みの創出~ ③ 新産業の創出</p>	<p>新たな動きなど</p>
<p>・No.1「まとまりのあるナスの産地づくり」 ⇒ 土佐あき地域圏芸戦略推進会議まとまりづくりチーム会を定期的に開催。学び教えあう仕組みを通じて、ナスの高収量農家が増加</p> <p>・No.2「ユズを中心とした中山間地域の農業振興」 ⇒ 北川村において、ユズ搾汁施設の高度化事業を実施。今秋からは搾汁率や処理能力の向上などにより、生産農家の所得向上に寄与</p>	<p>《地域アクションプランフォローアップ会議での主な確認事項》</p> <p>○修正(事業主体、事業内容の追加等)</p> <p>・No.9「上土佐(かみとさ)備長炭販売促進事業」 ⇒ 事業主体を室戸市、東洋町それぞれの組織とし、事業内容に窯等の整備を追加</p> <p>・No.14「低価格な定置網漁獲物の販売施策」 ⇒ 事業主体に水産加工業者、事業内容に加工品製造販売をそれぞれ追加</p> <p>・No.15「新たな漁業の導入とシラス魚価等の向上」 ⇒ 事業主体に地域協議会、事業内容にシラス魚価向上に向けた検討・活動組織の仕組みづくりを追加</p> <p>・No.25「バーデハウス室戸を核とした健康観光産業」 ⇒ 事業名を「シレストむろと」に変更、事業内容に旅行代理店との提携による旅行商品化を追加</p> <p>・No.34「龍馬伝を活かした観光振興」 ⇒ 事業内容に中岡慎太郎館のリニューアルを追加</p> <p>《その他》</p> <p>・芸西村の地場産品直販所「かっぱ市」における花卉コーナーの拡充、新たな商品の企画開発について検討</p> <p>・そのほかに、地域本部へ10団体・個人から問い合わせがあったが、現時点では、内容が具体化しておらず、地域アクションプランへの追加の検討を行うまでには至っていない</p>
<p>・No.8「高齢農家とともに支える農業の仕組みづくりと集落の活性化」 ⇒ 「谷相地区集落営農組合」(香美市香北町)において、農作業の受委託の実施、青ネギ・アジサイ等の新たな有望品目の導入など、農業で生活できる仕組みづくりを推進</p>	<p>《その他》</p> <p>・「三宝山」を活用した観光振興など、地域本部へ8件の相談・協議等があったが、現時点では、内容が具体化していない等により、地域アクションプランへの追加の検討を行うまでには至っていない</p>

地域名	上半期の総評	特徴的な取り組みの状況	
		1 足下を固め、活力ある県外市場に打って出る	2 産業間連携の強化
高知市	<p>・全体としては概ね実施計画どおり進捗している。</p> <p>・特に、観光分野においては、「龍馬伝」を契機とした観光の推進について、特色ある取り組みを具体的に展開。</p>	<p>① 地産地消の徹底</p> <p>② 地産外商の推進</p> <p>③ 海外への地産外商に挑戦</p>	<p>2 産業間連携の強化</p> <p>① 産業間の連携による高付加価値化の推進</p> <p>② 特に産業間連携を進める2つの柱</p> <p>ア 第一次産業の強みを生かした食品加工の推進</p> <p>イ すそ野の広い観光産業の戦略的展開</p>
		<p>・No.15「高知県漁協直販施設での鮮魚等の販売促進」</p> <p>⇒直販施設での販売促進活動に取り組むこととあわせて、県内量販店との直接取引が10月からは、現在の1店舗から10店舗に拡大し、取引量が増加の見込み</p> <p>・No.26「中心商店街でのアンテナショップの開設」</p> <p>⇒高知市における地域産品の販売やテストマーケティングを行う場としてのアンテナショップの開設に向け、民間の運営会社「樹まこと」が設立され、現在取扱品目を募集中</p>	<p>・No.8「稲ホールクロップサイレージを核にした耕畜連携の推進と二期作文化の復活」</p> <p>⇒安心・安全の酪農製品の生産に向け、二期作農家が作った稲を畜産農家が飼料として購入する耕畜連携の仕組みが出来上がり、現在、当初の計画地域以外にも広がりがでてきている。</p> <p>・No.2「ショウガの安定供給と消費拡大」</p> <p>⇒ショウガの加工品を商品化し、首都圏の見本市・商談会へ出品するなど、販路拡大に取り組んでいる。</p> <p>・No.1「地域の基幹品目の振興(新高ナシ)」</p> <p>⇒規格外品を活用した加工への取り組みとして、複数の酒造会社と連携し、リキュールの商品開発に向けて検討中</p> <p>・No.5「四方竹のブランド化による中山間地域の振興」</p> <p>⇒四方竹の安定的な供給に向け、工業技術センターと連携して鮮度保持加工の研究を行うことを確認するとともに、加工のための省エネボイラーを導入</p> <p>・No.35「龍馬伝」を契機とした観光の推進</p> <p>⇒「龍馬の生まれたまち記念館」を中心としたまち歩きマップ(6コース)が完成し、また体験型観光の目玉である高知市観光遊覧船「きらり」の増便に向けて検討中</p> <p>・No.31「映画を通じた「よさこい」発祥の地としてのアピールと観光客の誘致」</p> <p>⇒よさこいを舞台にした映画製作に県・市の支援が決定し、9月から映画撮影が開始</p>
嶺北	<p>・一部に少し遅れの見られる取組もあるが、全体としては、概ね実施計画どおり進捗している。</p> <p>・特徴的な取組としては、一次産品を活用した加工品づくり等の取組が進んでいる。</p>	<p>・No.1「れいほくブランドの園芸産地の確立とユズの加工拠点づくり」</p> <p>・No.3「米粉を活用したビジネスの展開」</p> <p>⇒生活協同組合かがわの宇多津店の開設に伴い、「嶺北コーナー」を設置(6月27日)。引き続き、同生協の3店舗に「嶺北コーナー」を設置予定。</p> <p>・No.4「米のブランド化による稲作農業の展開」</p> <p>⇒海洋深層水を活用したブランド米が大手の米間屋に高く評価され、名称を「土佐天空の郷」(商標登録申請中)として、首都圏などで開催された特約店説明会に参加し、予定より早く商談を進める機会を得ることができている。</p> <p>・No.10「れいほくスケルトン」の性能向上及び販売促進</p> <p>⇒住宅の基本構造体をキット商品化した嶺北スケルトンを活用した住宅の受注は、4月～8月までで約30棟(土佐町の町営住宅を含む。)が見込まれており、年間の目標60棟の達成に向け、県外・海外も含めて展開している。</p> <p>・No.12「木工製品の製造・販売による地域の活性化」</p> <p>⇒本山町商工会青年部木部会ばうむでは、嶺北管内の小・中学校に製品を納入するなど実績を積み重ねており、本格的なビジネス展開に向け、法人化等の取り組みを進めている。</p>	<p>・No.3「米粉を活用したビジネスの展開」</p> <p>⇒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米粉工場の稼働、パン・菓子製造販売店(米米ハート)の開店等、本格的に事業を開始した。 ・米粉商品については、冷凍麺の製造販売が始まり、他の商品の開発にも取り組んでいる。 ・嶺北地域に来ると米粉の料理や商品に巡り合える「米粉の里構想」の実現に向けた取組もスタートした。
		<p>上半期の進捗度(達成度)</p> <p>【37プランの取り組み48件】</p> <p>◎・・・6</p> <p>○・・・32</p> <p>△・・・10</p>	<p>上半期の進捗度(達成度)</p> <p>【18プランの取り組み26件】</p> <p>◎・・・1</p> <p>○・・・23</p> <p>△・・・2</p>

<p>3 足腰を強め、新分野へ挑戦</p> <p>① 生産地の足腰の強化と担い手の育成 ② 中山間地域の産業づくり ～地域アクションプランの新たな取り組みの創出～ ③ 新産業の創出</p>	<p>新たな動きなど</p>
<p>・No.3「ユズを核とした中山間農業の活性化」 ⇒安定したユズの加工品の生産に向け、搾汁施設を増設しており、10月末に竣工予定</p>	<p>《今後に向けた課題》</p> <p>(1)さらなる観光の磨き上げと広域観光の展開 ・No.29「体験型観光推進のための組織づくり」 ⇒高知市が核となり、周辺地域も巻き込んだ広域的な観光モデルルートの作成と商品化</p> <p>(2)地産外商への積極的支援 ・No.2「ショウガの安定供給と消費拡大」 ・No.9「乳製品の開発による新しい酪農経営モデルの創出」 ・No.16「底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大」 ・No.17「冷凍ドロマの販路拡大」 ⇒テストマーケティングの機会の積極的活用</p> <p>(3)ものづくりの地産外商への取り組み ・No.19「土佐のものづくり企業による地産地消の推進」 ・No.20「工業分野における産業政策情報の一元化による競争力の強化」 ⇒ものづくり企業の情報の一元化と情報発信</p> <p>《その他》</p> <p>・地域本部へ13団体・個人から問い合わせがあったが、現時点では、内容が具体化しておらず、地域アクションプランへの追加の検討を行うまでには至っていない。</p>
<p>・No.2「集落営農で元気な地域づくり」 ⇒伊勢川営農組合(土佐町)が、こうち型集落営農モデル事業の認定を受け(5月25日)、取り組みが進んでいる。嶺北地域では、同モデル事業の認定は、吉延営農組合(本山町)と合わせて2件となる。</p>	<p>《地域アクションプランフォローアップ会議での主な確認事項》</p> <p>○追加検討項目(21年度)(事業主体、事業内容の追加等) ・JA出資型農業生産法人による地域活性化の取組 ・木質バイオマスの利用拡大の取組</p> <p>○追加検討項目(22年度)(事業主体、事業内容の追加等) ・白髭山を活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組 ・早明浦ダムを活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組</p> <p>※ 各項目とも名称は仮称である。 ※ 各項目とも今後、具体化に向け、ワーキング等で検討していく予定である。</p> <p>《その他》</p> <p>・上記の他に、地域本部に4件の相談・提案があったが、現時点では内容が具体化していない。 今後、継続して検討を行うこととしている。</p>

地域名	上半期の総評	特徴的な取り組みの状況	
		1. 足下を固め、活力ある県外市場に打って出る	2. 産業間連携の強化
仁淀川	<p>・全体としては、実施計画どおり進捗している。</p> <p>・1次産品を活用した加工品づくりのほか、商工業、観光の取り組みとあわせて幅広い分野で取り組みが動きはじめた。</p>	<p>① 地産地消の徹底</p> <p>② 地産外商の推進</p> <p>③ 海外への地産外商に挑戦</p>	<p>① 産業間の連携による高付加価値化の推進</p> <p>② 特に産業間連携を進める2つの柱</p> <p>ア 第一次産業の強みを生かした食品加工の推進</p> <p>イ すそ野の広い観光産業の戦略的展開</p>
	<p>上半期の進捗度(達成度) 【35プランの取り組み34件】</p> <p>◎… 2</p> <p>○…26</p> <p>△… 6</p>	<p>・No.8「仁淀川流域茶のブランド化を主体とした茶の振興」 ⇒仁淀川流域の茶産地全体のブランド化に向けて、統一ブランドの創造に取り組むとともに、県内外での製品茶の販売促進など、流域ぐるみでのPR活動を展開している。</p> <p>・No.2「土佐文旦の加工」 ⇒土佐文旦の加工用原料としての有効活用について、「JAとさし」と県内酒造会社が連携。リキュール等の商品化に向けた取り組みにより生産農家の所得向上に取り組む。</p> <p>・No.18「うるめのブランド化」 ⇒地域漁業者、加工業者、飲食店、関係団体等の連携が整い、一本釣りウルメの価値向上に向けて商品開発などの活動を展開。</p> <p>・No.21「惣食品プランの地域商社化への取組」 ⇒カット野菜等の加工販売事業の拡大に向け、町が所有する食品加工施設を整備し、処理能力の拡大を図ることで県外も含めた販路拡大の取り組みを展開している。</p> <p>・24「JRバス越知駅跡地を活用した中心市街地の活性化」 ⇒「観光や地域の情報発信」と「地場産品等の販売」による地域振興と経済の活性化に向けて、まちの駅「情報ステーションおち」(仮称)の整備に今月着手。</p> <p>・No.29「グリーンパークほどの」の多面的な活用 ⇒交流人口の拡大に向け、CSR(企業の社会的責任)活動を活用した体験学習機能の整備を行うなど、施設の新たな活用策の検討のため、環境先進企業を視察するなど、整備計画策定に着手。</p>	
高幡	<p>・全体としては概ね実施計画どおりに進捗している。</p> <p>・特に産業振興アドバイザー等も活用し、第一次産品や観光資源などの地域の素材を生かして、中山間地域の活性化に向けた総合的な取り組みが進められている。</p>	<p>・No.22「スラリーアイスを活用した魚価向上対策」 ⇒専従職員を1名採用、実証実験施設の建設に着手するとともに、官能評価の協力店舗の確保を実施。下半期は鮮度保持実験に取り組む。</p>	<p>・No.23「シイラを柱とした水産加工業の創設」 ⇒シイラの加工に取り組む興津四万七マヒマヒ丸企業組合を6月に設立。K社に原材料、道の駅に総菜を安定的に供給する新加工場が下半期に完成する予定であり、現在、新商品開発を計画。併せて、新たな販路拡大にも取り組んでいる。</p> <p>・No.28「かつお」まるごと商品開発プロジェクト」 ⇒企画どく礼もん企業組合が、地元大正町市場前で「かつお」関連商品「クレティーヤ」などを販売するファーストフード風店舗の今年度末の開業に向け、事業計画を策定中。また、新商品の開発やピザチェーン店への商品納入について商談中である。</p> <p>・No.37「体験型・滞在型観光の推進」 ⇒土佐・龍馬であい博のサテライト会場(ゆすはら・維新の道社中)の基本構想やテーマを決定し、施設設備の改修工事がスタート。来年1月16日のサテライトのオープンに向けた準備に取り組んでいる。</p> <p>・No.38「海洋堂ホビー館の誘致」 ⇒四万十町と海洋堂との協定締結によりホビー館建設に向けた推進体制を確立。地元とともにホビー館建設による打井川地域活性化基本構想などを策定している。</p>
	<p>上半期の進捗度(達成度) 【38プランの取り組み38件】</p> <p>◎… 1</p> <p>○…27</p> <p>△…10</p>		

<p>3 足腰を強め、新分野へ挑戦</p> <p>① 生産地の足腰の強化と担い手の育成 ② 中山間地域の産業づくり ~地域アクションプランの新たな取り組みの創出~ ③ 新産業の創出</p>	<p>新たな動きなど</p>																												
<p>・No.1「地域の基幹品目及び推進品目等の産地の維持・発展」 ⇒産地基盤の強化に向けて、光センサー選果機(土佐文旦)及び高精度計量選別機(生姜)を備えた新たな集出荷施設の整備に取り組む。</p> <p>・No.6「本川キジの販路確保と新たな商品開発」 ⇒安心・安全な商品の安定的な生産に向けて、給水施設や真空包装機を整備し、販路拡大のため各種商談会への参加とともに、庭先農家の増加に向けた取り組みを展開。</p> <p>・No.10「力強い高精度トマト産地の確立」 ⇒産地間競争に対応するため、トマトの生産情報等を表示できるシステムの導入や糖度10以上のトマトの選別が可能となるようにするための選果機の改修に着手。</p>	<p>《地域アクションプランフォローアップ会議での主な確認事項》</p> <p>○修正(事業主体、事業内容の追加等) ・No.2「土佐文旦の加工」 ⇒事業主体に「県内酒造会社」及び「土佐文旦加工組合」を追加指標に「リキュールの開発と販売開始」を追加</p> <p>・No.25「企業進出による雇用の増と地元企業の活性化」 ⇒地域内の食品会社が県内の素材を活用して新商品を開発、生産を行うこととしている 事業主体に「食品会社」を追加</p> <p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域本部には企業等から地域産品(生姜、高精度トマト、マッシュルーム等)の活用に係る設備投資の相談があるが、内容が具体化しておらず、地域アクションプランへの追加の検討を行うまでには至っていない。 ・観光分野では仁淀川地域として連携した取り組みを進めるため、行政機関が連携する仁淀川流域交流会議や地域資源活用共有会議内に地域の観光業者などによる観光部会を設置し、具体的な検討を進めることとしている。 ・牧野博士生誕150周年に合わせ、地域の関係町村が県立牧野植物園と連携して、顕彰や展示、公園づくりなどに取り組もうとしている。 																												
<p>・NO.8「農大跡地の活用」 ⇒四万十町滞在型市民農園整備促進協議会を設立し施設の具体的な整備計画などを検討。施設の整備に関する設計がほぼ完了し、下半期は整備着手に取り掛かる。併せて建設と同時に運営協議会に移行し、具体的な運営管理をするための利用規定の制定や利用者募集を実施する。</p> <p>・NO.32「拠点ビジネスの推進」 ⇒津野町の地域資源をフルに活用して地産地消、観光交流、加工品の開発販売の3事業を実施。直販所の販売額や農産物の生産量の増加、お茶を使った町外に売れる商品や食事のメニューづくり、森林セラピー・観光ガイドの充実などに取り組んでいる。</p> <p>・NO.34「拠点ビジネス体制の構築」 ⇒四万十町拠点ビジネス体制整備事業推進協議会内に商品開発、流通、観光の3部会を置き、四万十町の資源を活用し、道の駅めぐり窪川を核として地域全体が活性化するための取組を進めている。四万十町内の十和・大正の道の駅をつないだ地場産品の高知市内への輸送方法の実験が進められ、統一化に向け、取り組みを進めている。</p>	<p>《その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の会議に向け、6つの取組について、地域アクションプランへの追加を検討していく。 <table border="1" data-bbox="719 1344 1276 1545"> <thead> <tr> <th>NO</th> <th>市町村名</th> <th>団体名</th> <th>分野</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>四万十町</td> <td>個人</td> <td>海産物生産</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>須崎市</td> <td>任意団体</td> <td>水産物加工製造・販売</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>津野町</td> <td>株式会社</td> <td>ペレット燃料施設</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>四万十町</td> <td>公益法人</td> <td>木材の販売</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>須崎市</td> <td>個人</td> <td>里山体験観光</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>四万十町</td> <td>個人</td> <td>農産物加工販売</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な事業の推進のため、既存のアクションプランの統合などについても検討を進めていく。 	NO	市町村名	団体名	分野	1	四万十町	個人	海産物生産	2	須崎市	任意団体	水産物加工製造・販売	3	津野町	株式会社	ペレット燃料施設	4	四万十町	公益法人	木材の販売	5	須崎市	個人	里山体験観光	6	四万十町	個人	農産物加工販売
NO	市町村名	団体名	分野																										
1	四万十町	個人	海産物生産																										
2	須崎市	任意団体	水産物加工製造・販売																										
3	津野町	株式会社	ペレット燃料施設																										
4	四万十町	公益法人	木材の販売																										
5	須崎市	個人	里山体験観光																										
6	四万十町	個人	農産物加工販売																										

地域名	上半期の総評	特徴的な取り組みの状況	
		1 足下を固め、活力ある県外市場に打って出る	2 産業間連携の強化
幡多	<p>・全体としては概ね順調に推移</p> <p>・地場産品開発では、域内4市町村で取り組みが開始されている。</p> <p>・観光分野では、国の事業を活用し、教育旅行の推進や域内2泊3日以上滞在を旨とし、体験メニューを活かした取り組みが始まっている。</p>	<p>① 地産地消の徹底</p> <p>② 地産外商の推進</p> <p>③ 海外への地産外商に挑戦</p>	<p>① 産業間の連携による高付加価値化の推進</p> <p>② 特に産業間連携を進める2つの柱</p> <p>ア 第一次産業の強みを生かした食品加工の推進</p> <p>イ すそ野の広い観光産業の戦略的展開</p>
		<p>・No.17「にぎわいづくりを中心とした地域活性化のための魚加工施設の整備」</p> <p>⇒すくも湾漁協で、片島地区に魚加工施設の整備に着手。キビナゴバラ凍結や地場の魚のフィレなどを生産し、幡多地域や高知市への販売を促進。</p> <p>・No.22「土佐清水市地域再生計画(大岐地区の開発計画)」</p> <p>・No.23「地域資源を統括したプログラム構築による清水の元気再生事業」</p> <p>⇒(株)土佐清水元気プロジェクトでは、市内でとれる農林水産物を加工し、県内県外へ販売する仕組みづくりと、大岐地区へ農林水産物を供給する仕組みづくりや新商品開発に取り組んでおり、魚加工品を中心に既に県外企業との取引も始まっている。</p> <p>・No.28「カツオ文化のまちづくり事業」</p> <p>⇒黒潮町佐賀地域で水揚げされるカツオに、より付加価値を付けるため、カツオコロッケなどの新商品開発を行っている。併せて、実行委員会を立ち上げて、10月に開催する「もどりカツオ祭」の準備を進めている。</p>	<p>・No.30「子ども農山漁村交流プロジェクト」受入事業の推進」</p> <p>⇒域内の体験メニューを活かし、より質の高い体験プログラムづくりや、地域コーディネーターの育成などに、取り組む。既に数件の実績がありスムーズに受入が行われている。</p> <p>・No.31「幡多広域における滞在型・体験型観光の推進」</p> <p>⇒幡多圏域内で2泊3日以上滞在型観光を推進するため、国の観光圏整備事業を活用し、地域の優れた資源を活かす取組をはじめ、広域観光組織の強化など、仕組みづくりに着手。各事業実施主体で取り組みを実施中。観光組織の強化は、一般社団法人設立を目指すことで協議会で合意。</p>

上半期の進捗度(達成度)
【37プランの取り組み39件】

◎・・・1
○・・・27
△・・・11

<p>3 足腰を強め、新分野へ挑戦</p> <p>① 生産地の足腰の強化と担い手の育成 ② 中山間地域の産業づくり ~地域アクションプランの新たな取り組みの創出~ ③ 新産業の創出</p>	<p>新たな動きなど</p>
<p>・No.3「果樹(ブドウ・ユズ)の産地づくり」 ⇒ユズについて、三原村農業公社が核となり、村内の平坦地での生産の拡大に取り組み、農業者の所得向上や新規就農の促進につなげる。</p> <p>・No.26「拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)」 ⇒(財)大月町ふるさと振興公社が中心となり、大月町の資源を活かした新商品開発や、観光情報発信に取り組む。道の駅「ふれあいパーク大月」での直販や通信販売の仕組みづくりを継続。水産物や加工品のセット販売に着手。お中元用セット販売では昨年倍の実績が上がるなど効果も出ている。</p>	<p>《地域アクションプランフォローアップ会議での主な確認事項》</p> <p>○修正(事業主体、事業内容の追加等)</p> <p>・No.9「中山間地域の保全と活性化」(黒潮町) ⇒事業主体を、佐賀温泉を拠点に地域の活性化に取り組む「黒潮町・黒潮町佐賀北部地域協議会」と七立栗や馬荷温泉を活用して地域の活性化に取り組む「黒潮町・かきせ川地域づくり協議会」に分け、それぞれの地区の活性化策に分離した。</p> <p>○追加検討項目 次回の会議に向け、地域アクションプランへの追加を検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さめ漁業復活に向けた取り組み ・竜串ふれあい観光施設整備事業 ・土佐清水まるごと戦略観光展開事業 ・農業を核とした6次産業化(苺) ・地域特産資源再生事業(栗再生事業) <p>《その他》</p> <p>個人や企業から11件の相談あり。一部、観光資源としての活用につなげていけるものもあるが、その他は具体的な取組内容が固まっておらず、課題の解決等に時間を要する見込み。</p>